

萩野 昇 著

ロジックで進める リウマチ・膠原病診療

花岡亮輔 (JA かみつが厚生連上都賀総合病院リウマチ膠原病内科)

◆なぜ医師はリウマチ・膠原病が苦手なのか？

リウマチ・膠原病科について、世間一般の多くの医師は、「難しい!」と考えているようだ。いわく、リウマチ・膠原病科は、難解で抽象的な免疫学の知識を振りかざし、診断や治療がことさら難しい稀少疾患ばかりを扱う診療科ということらしい。

難解なイメージの一因は、扱う疾患がほぼ全て原因不明であることだろう。原因不明である以上、病因学的診断は不可能である。通常は疾患原因と密接に結びついている病理学的診断すら、原因不明の疾患においては絶対的意義を持たない。そのため、リウマチ・膠原病科で扱う疾患の多くは症候学的診断でしか捉えようがない。疾患の存在可能性を高める所見を累積することで診断する。疾患活動性評価も単一のマーカーに頼れない。複数の所見を組み合わせで行われる。

リウマチ・膠原病科が敬遠されるもう一つの原因は、筋骨格・皮膚・感覚器など、他領域の内科医が通常扱わない器官をも含めて横断的に診療することにあるだろう。臓器別診療に慣れきった医師たちにとって、単一臓器に関心を絞ることができない診療は大きなプレッシャーなのだと思う。

◆リウマチ・膠原病の「診療の勘所」をわかりやすく解説

従来、教科書的な疾患各論を語った本は星の数ほど存在する。しかし、初学者の戸惑いは、これら疾患各論には書きようのないリウマチ・膠原病科の特性にこそ生じる。それを筆者は熟知しており、あえて症候学的、横断的な記載を中心に本書を構成している。にもかかわらず、筆致は平易で、何ともわかりやすい。まるで筆者の診療に陪席しているかのような味がある。ページ数は少なく、夢中になれば一日で読破できるほどの分量である。だが、内容は筆者の圧倒的な知識と経験に裏打ちされており、かなりのベテランであっても初めて知ることが数多く見いだされるであろう。リウマチ・膠原病科の入門者にとってはこの領域の勘所を押さえるために、ベテランには、入門者にこの領域をいかに教えるべきかを再考するために、ぜひお薦めしたい良書である。

(B5判 頁176 2018年 定価: 本体3,800円+税
[ISBN978-4-260-03130-1] 医学書院刊)